

令和 4 年 6 月 30 日現在

機関番号：34105

研究種目：基盤研究(C)（一般）

研究期間：2018～2021

課題番号：18K02842

研究課題名（和文）養護教諭の救急処置における臨床判断能力を培うシミュレーション教育プログラムの開発

研究課題名（英文）Development of the simulation educational program to cultivate ability for clinical judgment in the first aid of the Yogo Teacher

研究代表者

小川 真由子 (Ogawa, Mayuko)

鈴鹿大学・こども教育学部・准教授

研究者番号：70736389

交付決定額（研究期間全体）：（直接経費） 2,200,000円

研究成果の概要（和文）：本研究の目的は、養護教諭の救急処置を行うにあたっての臨床判断能力を向上させることであり、高機能患者シミュレータを活用したシミュレーション教育のプログラム開発を目指した。結果として、救急処置における臨床判断能力の向上にはシミュレーション教育が高い効果を示すことが明らかとなった。また、緊急対応への自信や学習への意欲を向上させることや、反復学習の効果も認められた。緊急時の対応に関する研修を継続的に複数回受講することや、現場の再現性を高め、高機能患者シミュレータを活用して異常な状態を体験させるなど臨場感を高める講習の有効性が示唆された。今後はより教育効果が期待できるものに昇華させることを目指したい。

研究成果の学術的意義や社会的意義

子どもの命を守るためには養護教諭の看護力が問われ、専門的な知識や技術だけでなくそれらを統合した臨床判断能力が必要であり、それらの修得を可能にするシミュレーション教育の開発は学術的意義があると考えられる。これまで養護教諭教育には導入されていなかった分野であり、創造性も認められる。また、学生だけでなく、現職や一般教員への研修にも活用することができ、社会的意義も見出される。

研究成果の概要（英文）：The purpose of this study was to improve the clinical judgment ability of Yogo-teachers when performing first aid. We aimed to develop a simulation education program using a high-performance patient simulator. As a result, it was revealed that simulation education has a high effect on improving clinical judgment ability in first aid. They also showed improved confidence in emergency response and motivation to learn, as well as the effect of repetitive learning. Participants are required to continuously attend multiple training sessions on emergency response. In addition, it is necessary to improve the reproducibility of the site and to enhance the sense of realism by using a high-performance patient simulator to experience abnormal conditions. In the future, we would like to aim to sublimate it into something that can be expected to have a more educational effect.

研究分野：看護学

キーワード：高機能患者シミュレータ 養護教諭 シミュレーション教育 臨床判断 救急処置 プログラム開発
食物アレルギー アナフィラキシー

科研費による研究は、研究者の自覚と責任において実施するものです。そのため、研究の実施や研究成果の公表等については、国の要請等に基づくものではなく、その研究成果に関する見解や責任は、研究者個人に帰属します。

1. 研究開始当初の背景

子どもを取り巻く環境の変化に伴い健康問題が複雑化し、養護教諭に求められる役割は重要性を増している。養護教諭の重要な役割の一つとして救急処置が挙げられる。学校における救急処置とは、医療機関での処置が行われるまでの応急的なものであり、救命処置、一時的に危険脱出処置、保護者または医療機関へ受診するまでの処置、一般の医療の対象とはならない程度の軽微な傷病の処置である。そのため救急処置を実践するにあたって、緊急度・重症度の判断を行うためにフィジカルアセスメントの判断が必要となる。これまでにフィジカルアセスメントについての研修や研究は多くなされているが、救急処置の判断において大多数の養護教諭が困難を感じているという報告や、対応を決めるための緊急度・重症度の判断において自信が持てないという報告がある。子どもの命を守るためには、養護教諭の看護力が問われ、専門的な知識や技術だけでなくそれらを統合した臨床判断能力が必要であり、また実践力を兼ね備えておく必要があると考える。

看護師が行う臨床判断について、クリスティーナ・タナー(2015)は、「患者のニーズ、関心事、健康問題について解釈や統合を行い、アクションを起こすかを判断し、標準的なアプローチを使用するか修正し、もしくは患者の反応によって適切とみなされる新しいことを即興で行うこと」と定義し、臨床判断モデルを構築している。そのプロセスには、「気づき」「解釈」「反応」「省察」の4つの様相が含まれる。養護教諭が行う救急処置にもこのような臨床判断が必要であり、その能力向上にはシミュレーション教育が重要であると考えた。近年、医学教育、歯学、薬学、看護学など医療系分野教育では、人体の構造と機能を再現したシミュレーターやバーチャル教材でトレーニングを行うシミュレーション教育が行われるようになってきている。これは、専門的な知識・技術・態度を実践できる教育効果が示されているからである。一方、養護教諭教育においては、高機能患者シミュレータを用いたシミュレーション教育がなされていないことがブレ調査で明らかにされた(小川ら, 2017)。

養護教諭の救急処置における臨床判断においても、シミュレーション教育プログラムを活用することは、望ましい教育効果が期待できると考える。とりわけ、対応を決めるための緊急度・重症度の臨床判断において自信を持つことができ、養護教諭としての実践力を培うことを可能にできる。そこで、高機能患者シミュレータを用いて、養護教諭を対象とした救急処置における臨床判断能力を培うシミュレーション教育プログラムを開発を目指す。さまざまな教育分野でシミュレーション教育の有効性が報告される中で、養護教諭教育においては遅れを取っていると言わざるを得ない。高機能患者シミュレータを活用することに独自性のある研究が展開でき、シミュレーション教育プログラムの開発は、卒業後すぐから保健室で1人または2人の少人数勤務を強いられる養護教諭にとって、欠かすことのできない実践力の獲得が期待される。

2. 研究の目的

本研究の目的は、高機能患者シミュレーターを用いて、養護教諭を対象とした救急処置における臨床判断能力を培うシミュレーション教育プログラムを開発することである。

3. 研究の方法

【研究1 学校における救急処置事例の収集・分析】

学校での救急処置事例および具体的な対応の現状について、情報を収集する。得られた情報から、救急処置の対応事例を検討し、シミュレーター等で臨床判断がどのように異なるのかについて分析を行う。

【研究2 救急処置事例のシミュレーション教育プログラム作成】

学校現場で起きやすい救急処置が必要な事例を経験でき、かつ臨床判断が明らかになるようなシミュレーション教育プログラムを作成し、その効果を評価する。

【研究3 作成したシミュレーション教育プログラムの実践と検証】

研究2で作成されたシミュレーション教育プログラムを試行的に実施し、その有効性を検証する。バイタルサインなど場面設定をプログラミングした高機能患者シミュレーターで実際に近い状況を再現する。その際、必要十分なものが備わっているか、改善点や学校現場で導入する際に必要な視点は何か、といった点に関して修正を加え、プログラムの完成を目指す。

4. 研究成果

1) 高機能患者シミュレータによる教育効果

学校は教育の場であるため、医療の場のように「救急処置」を必要とする緊急事態の発生頻度は稀であり、養護教諭は子供の状態を適切かつ速やかに判断し、対応することに不慣れであると推察される。そこで、異常時の脈拍や呼吸状態などを再現できる高機能患者シミュレータを活用した教育効果について検証した。

高機能患者シミュレータを用いた脈拍観察の学習効果について、養護教諭養成課程の学生では、正常と徐脈では脈拍測定の高解率が高かったが、頻脈と期外収縮では高解率が低いという結果であった。異常な脈拍を体験する機会がほとんどない学生において、より正確な脈拍測定技術を獲得するためには異常脈拍に関しても体験を積み重ねることが必要であることが分かった。また、高機能患者シミュレータによる脈拍観察は、脈拍観察の判断項目における自信に影響を与えていた。高機能患者シミュレータを用いることで、学生が意識して判断の概念を可視化でき、自分で「気づき」、自分で「解釈」という臨床判断の自信をつけるような学習効果をもたらすことが示唆された。また、脈拍観察に関する自信については、高機能患者シミュレータを用いることで、脈拍観察の技術項目、判断項目すべてで自信が上がり、脈拍観察の成功体験をすることで自信が上がるということが示唆された。さらに、養護実習等の経験などのイベントが脈拍測定という看護力に影響を与えることが分かった。

一方、高機能患者シミュレータを用いた教育のリフレクションシートを質的に分析したところ、読み取ったバイタルサインと観察した症状を統合して解釈する課題が示された。多様な状況を設定できる高機能患者シミュレータを用いたトレーニングを積み重ねることの重要性が示唆された。

2) 食物アレルギーによるアナフィラキシー対応のシミュレーション教育プログラムの提案

養護教諭の臨床判断能力を育成するためのシミュレーション教育のプログラムを開発し、その一例を示す。給食後の子供が食物アレルギーによるアナフィラキシーショックに向かいつつあるシナリオを作成し、アナフィラキシー時の脈拍や呼吸状態などを再現できる高機能患者シミュレータを活用したシミュレーション教育プログラムを考案した。以下は現職の養護教諭を対象とした1日研修のプログラムである。シナリオの概要をシナリオデザインシートとして表1にその概要、表2にタイムテーブルを示す。

表1 シナリオデザインシート

テーマ 食物アレルギーと小児喘息のある子どもへの対応
1. 目標
1) シミュレータを用いたA児の観察をすることができる
2) 観察した情報から初期対応の優先度を決定することができる
3) A児の対応ができる
4) シミュレータを用いたA児の経過を観察することができる
5) リフレクションシートで自己の振り返りができる
2. シミュレーション課題
あなたは小学校の養護教諭です。学校には養護教諭は1人です。現在12時40分です。保健室には他の児童や教員はいません。あなたが保健室にいますと、1年生のA児さんが「息が苦しい」と訴えて一人で保健室へ来ました。そのままベッドで臥床しました。
3. 事前学習内容
1) 学校看護に必要なフィジカルアセスメント
2) 食物アレルギーのアナフィラキシー対応
3) 小児気管支喘息
4) 養護教諭の臨床判断

食物アレルギーと小児喘息のある子どもへの対応をテーマとした。食物アレルギーによる症状と喘息症状は類似している点があり、その判断が難しいことが推測される。

学習の目標は4項目を設定した。ブリーフィングとして、学習目標の確認、児の情報など事例の紹介、シミュレーション課題を学習者に伝える。

これらの事前学習内容として、講義では「学校看護に必要なフィジカルアセスメント、臨床判断について」、「食物アレルギーのアナフィラキシー対応」、「小児気管支喘息」、高機能シミュレータの説明、聴診器の使い方などを行う。バイタルサインなど基礎的な看護技術の練習として、

シミュレータ体験を行い、使用するシミュレータ（Scenario、京都科学）でできること、できないことなどの機能を説明するとともに、体温・SpO₂（経皮的動脈血酸素飽和度）・脈拍測定と呼吸音・腸音の正常および異常状態を体験してもらう。また、リフレクションシートの記入方法に関しての説明も行う。

表2 タイムテーブル

時間	内容
30分	オリエンテーション、ブリーフィング
60分	講義1「学校看護に必要なフィジカルアセスメント、臨床判断について」(40分) 講義2「食物アレルギーのアナフィラキシー対応」「小児気管支喘息」(20分)
10分	休憩
15分	高機能シミュレータ・機器説明、グループにおける役割分担、記録の方法
75分	シミュレータ体験とグループワーク
60分	昼食休憩
10分	シミュレーションの導入、確認
70分	シミュレーション実施と振り返り(リフレクションシートの記入)
10分	休憩
50分	デブリーフィング
20分	プログラム評価の記入
20分	まとめ、終了

グループワークとして、シミュレーション実践内容についての話し合いを行う。グループ内での役割分担（養護教諭役、動画撮影者、記録・観察者）を行い、現任校での対応やマニュアルの確認などを行う。その後、どのようにシミュレーション課題を実践していくのか、対応についての話し合いを行い、グループとしてのシミュレーションの方向性を決定する。そして、保健室を再現した擬似的な学習環境の下で、徐々に状態が悪化するようプログラミングした高機能患者シミュレータを対象児に見立てて、シミュレーションを行う。このとき、その様子をタブレット、定点カメラなどで撮影し、行動の記録を残す。

実施後の振り返りとして、実践したシミュレーションに関する省察を行う。撮影者がタブレットで録画した画像を見ながら、実施項目を客観視する観察者が、養護教諭役を中心にグループでリフレクションシートを記入する。リフレクションシートはクリスティーン・タナーが提唱する臨床判断（気づき、解釈、反応、省察）の形式に合わせて作成した（表3）。

表3 リフレクションシート

グループ番号				
時間	気づき (あなたが見たこと、 聴いたこと、測定した こと、観察したこと)	解釈 (あなたが感じたこ と、考えたこと、判 断したこと)	反応 (あなたが行っ たこと、言ったこ と「 <u> </u> 」、表情)	省察 (振り返り、良かっ たこと・改善点)

デブリーフィングとして、シミュレーションでの経験を目標に照らし合わせて達成度の確認を行う。シミュレーション教育に対する全般への評価を学習者と指導者が共に行う。行ったシミュレーションを目標に沿って振り返り、情報共有を行う。学習者が中心となって、ガイドラインや資料を用いながら、行った行動の裏付けとなる知識を確認したり、不確かな知識を再度学習する。指導者が学習者同士のディスカッションで学習を進めていく誘導を行う。

最後に学習のまとめとして、プログラムやシナリオを評価する。

このプログラムの他にも、一次救命処置や喘息、熱中症などの事例を扱うもの、対象者についても、現職養護教諭の他に、教員や養護教諭学生、大学院生などいくつかのプログラムの開発を行った。

3) 高機能患者シミュレーターを用いたシミュレーション教育の効果と評価

養護教諭養成課程の学生の臨床判断能力を育成するためのシミュレーション教育プログラムは、学生の臨床判断能力の獲得に関する自己評価は低かったものの、判断力や実践的な対応能力を向上させたいという意欲を高めるものであった。しかし、実践できたと自己評価している学生

は多くなく、学生がシミュレータになれていないことが要因の一つであると考えられた。日常的にシミュレーション教育が行われる教育環境の必要性が示唆された。今後、学生の臨床判断能力に関する自己評価の根拠を明らかにし、臨床判断能力に影響している要因を、教育システムに反映させていく必要性、シミュレーション教育が行える環境を整備し実践的な学習を継続していく必要性が示唆された。

また、養護教諭学生としての対応の傾向として、動画記録や自由記述などから分析を行った。その結果、呼吸のアセスメントに対する知識や看護技術が発揮できなかったことや、マニュアルを活用して対応できなかったこと、エピペン投与前後で比較すると統一した検診の実施項目がなかったことが分かった。また、気管支喘息とアナフィラキシー症状の判別を、食物アレルギー特有の皮膚症状と血圧低下などの情報によって行ったことが、早期のエピペン投与につながっていたことが明らかとなった。学習で得た知識と対応すべき技術の連携には訓練が必要であることが示唆された。

一方、養護教諭学生と現職養護教諭における学校組織対応の違いを検討したところ、学生グループではすべてのグループでエピペン®投与が行われたが、現職養護教諭グループにおいては1グループのみエピペン®投与を行わなかったという結果であった。緊急事態の現場を再現したシミュレーションでは、現職養護教諭グループの緊急時の学校組織対応には高い統一性が見られたが、学生グループの対応内容や順序にはマニュアルを見ながらでもばらつきが生じていた。学生にとっては、知識や技術のハード面に加えて、学校の組織的役割の意義や職員連携、情報伝達方法のシステムなどのソフト面における知識なども必要であり、現職養護教諭とは違ったレディネスも必要であることが分かった。学習者の背景を踏まえて、プログラムの内容や事前学習の改編を行うなどの対応が必要であることが示された。

また、高等学校教員を対象とした修学旅行時のアレルギー等緊急時を想定したチームでの対応におけるシミュレーションプログラムでは、受講前後の対象者による自己評価の変化として、アレルギー等緊急時の対応に関する研修を継続的に複数回受講することと、シミュレータを使用するなどの場面を想定した講習の有効性が示唆された。自由記述からも、緊急事態はいつでも起こり得るとの危機意識を持ち、準備することの重要性に気付くなど、チームシミュレーション講習の効果が確認できた。

4) 今後の課題と展望

上記のように、高機能患者シミュレータを活用したシミュレーション教育の効果は概ね確認できたものの、継続性については今後の課題である。反復学習の効果の確認として、2つの検診を行った。

まず一つ目として、タスクトレーニングにおいては、実施すると技術と判断の自信を向上させたことや、バイタルサインのタスクトレーニングを複数回行うことで、心室期外収縮の脈拍の測定技術が向上した。また、脈拍・呼吸の設定により学生の間違うパターンがあることが明らかとなった。シミュレーション教育については、食物アレルギーによるアナフィラキシー対応の自信について、判断、観察、対応の3項目すべてで事前より事後に有意に自信がついていた。

2つ目に、シミュレーション教育では、臨床判断の能力を培う効果があることが示された。アナフィラキシー対応の自己評価では、シミュレーション後に最も点が増加した項目は「緊急時対応マニュアルに沿って対応することができる」であった。さらに、回を重ねるごとに自己評価が高くなっており、複数回のシミュレーション教育は自己評価を高めることが明らかとなった。プログラム評価において最も平均点が高かった項目は、「実践的な対応力をさらに高めたいと思った」であり、対応力向上の意欲を引き出す効果があったことを示していた。概ね高評価が得られたものの、再現性を高めるなど、シミュレーションを行うための学習者や環境への準備などが今後の課題として見出された。

以上のように、実践的な学習を継続していく必要性が示唆されたものの、時間経過による学習効果の変化などについては、確認できておらず、さらなる研究を積み重ねていきたいと考える。

5. 主な発表論文等

〔雑誌論文〕 計14件（うち査読付論文 14件 / うち国際共著 0件 / うちオープンアクセス 14件）

1. 著者名 福田博美、藤井紀子、小川真由子、山田玲子	4. 巻 70
2. 論文標題 養護教諭養成におけるフィジカルアセスメント能力の育成 -複数回シミュレータを用いたバイタルサインのタスクトレーニングの評価-	5. 発行年 2021年
3. 雑誌名 愛知教育大学研究報告. 教育科学編	6. 最初と最後の頁 35-41
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスとしている (また、その予定である)	国際共著 -
1. 著者名 加藤杏花、古川由菜、八木麻悠子、加藤光咲、福田博美、小川真由子、佐藤伸子、葛西敦子、山田玲子	4. 巻 45(1)
2. 論文標題 学校における冬期の非接触体温計による体温測定の利用の可能性	5. 発行年 2021年
3. 雑誌名 東海学校保健研究	6. 最初と最後の頁 33-42
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスとしている (また、その予定である)	国際共著 -
1. 著者名 小川真由子、福田博美、藤井紀子	4. 巻 5
2. 論文標題 複数回体験するシミュレーション教育の学習効果とプログラム評価の検討 - 養護教諭を対象とした食物アレルギーによるアナフィラキシー対応の事例から -	5. 発行年 2022年
3. 雑誌名 鈴鹿大学短期大学部紀要 人文科学・社会科学編	6. 最初と最後の頁 167-176
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスとしている (また、その予定である)	国際共著 -
1. 著者名 福田博美、小川真由子、藤井紀子、佐藤伸子、山田玲子、葛西敦子	4. 巻 71
2. 論文標題 COVID-19の流行による学校のバイタルサインの測定器具の変化 パルスオキシメータおよび非接触体温計の所持状況	5. 発行年 2022年
3. 雑誌名 愛知教育大学研究報告 教育科学編	6. 最初と最後の頁 26-31
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスとしている (また、その予定である)	国際共著 -

1. 著者名 福田博美、藤井紀子、小川真由子、山田玲子	4. 巻 70
2. 論文標題 養護教諭養成におけるフィジカルアセスメント能力の育成 -複数回シミュレータを用いたバイタルサインのタスクトレーニングの評価-	5. 発行年 2021年
3. 雑誌名 愛知教育大学研究報告. 教育科学編	6. 最初と最後の頁 35-41
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスとしている (また、その予定である)	国際共著 -

1. 著者名 小川真由子、福田博美、藤井紀子	4. 巻 43 (1)
2. 論文標題 養護教諭学生の食物アレルギー対応におけるエピペン投与に関する臨床判断の傾向 - 動画分析と自由記述からの考察 -	5. 発行年 2019年
3. 雑誌名 東海学校保健学会誌	6. 最初と最後の頁 161-171
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスとしている (また、その予定である)	国際共著 -

1. 著者名 小川真由子、福田博美、藤井紀子	4. 巻 3
2. 論文標題 緊急事態発生時における養護教諭の学校組織対応に関する学生と現職の相違について	5. 発行年 2020年
3. 雑誌名 鈴鹿大学・鈴鹿大学短期大学部紀要	6. 最初と最後の頁 169-178
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスとしている (また、その予定である)	国際共著 -

1. 著者名 青山宣子、山本鈴、福田博美、小川真由子	4. 巻 1
2. 論文標題 養護教諭のための高機能患者シミュレータのシナリオの作成による大学院生の臨床判断能力の育成	5. 発行年 2020年
3. 雑誌名 鈴鹿大学・鈴鹿大学短期大学部 教職研究	6. 最初と最後の頁 100-119
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスとしている (また、その予定である)	国際共著 -

1. 著者名 福田博美、小川真由子、藤井紀子、林牧子	4. 巻 69
2. 論文標題 保育者養成におけるフィジカルアセスメント能力の養成 - シミュレータを用いたバイタルサインのタスク トレーニングの評価 -	5. 発行年 2020年
3. 雑誌名 愛知教育大学研究報告 教育科学編	6. 最初と最後の頁 79-83
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスとしている (また、その予定である)	国際共著 -

1. 著者名 小川真由子、福田博美、藤井紀子、林さえ子、永石喜代子、植田ひろみ、水野昌子、三尾弘子	4. 巻 42
2. 論文標題 養護教諭養成課程の学生における高機能患者シミュレータを用いた脈拍観察の学習効果 - 自信の評価からの 考察 -	5. 発行年 2018年
3. 雑誌名 東海学校保健研究	6. 最初と最後の頁 41-48
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスとしている (また、その予定である)	国際共著 -

1. 著者名 小川真由子、福田博美、藤井紀子、林さえ子、三尾弘子、水野昌子	4. 巻 2
2. 論文標題 高機能患者シミュレータを用いた教育プログラムの開発 第2報 養護教諭を対象とした食物アナフィラ キシー対応	5. 発行年 2018年
3. 雑誌名 鈴鹿大学・鈴鹿大学短期大学部紀要 人文科学・社会科学編	6. 最初と最後の頁 183-195
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスとしている (また、その予定である)	国際共著 -

1. 著者名 林さえ子、福田博美、小川真由子、藤井紀子、三尾弘子、水野昌子	4. 巻 68
2. 論文標題 養護教諭養成課程における臨床判断能力を育成するシミュレーション教育プログラムの提案と評価	5. 発行年 2019年
3. 雑誌名 愛知教育大学研究報告 教育科学編	6. 最初と最後の頁 37-44
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスとしている (また、その予定である)	国際共著 -

1. 著者名 山田玲子、福田博美、藤井紀子、岡本陽、小川真由子	4. 巻 69
2. 論文標題 修学旅行でのアレルギー等緊急時を想定したチームシミュレーション講習における効果と課題	5. 発行年 2019年
3. 雑誌名 北海道教育大学紀要 教育科学編	6. 最初と最後の頁 313-320
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスとしている (また、その予定である)	国際共著 -

1. 著者名 葛西敦子、福田博美、山田玲子、佐藤伸子、秋月百合、小川真由子	4. 巻 121
2. 論文標題 養護教諭の臨床判断に関する測定用具の開発	5. 発行年 2019年
3. 雑誌名 弘前大学教育学部紀要	6. 最初と最後の頁 157-166
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスとしている (また、その予定である)	国際共著 -

〔学会発表〕 計16件 (うち招待講演 1件 / うち国際学会 1件)

1. 発表者名 小川真由子、福田博美、藤井紀子
2. 発表標題 臨床判断力を養うシミュレーション教育の効果ー学生から見た反復学習の評価ー
3. 学会等名 日本学校保健学会第67回学術大会
4. 発表年 2021年

1. 発表者名 高木久美子、福田博美、小川真由子、林さえ子
2. 発表標題 女子中学生の性行動と電子機器の使用についてのCOVID-19流行前後の変化
3. 学会等名 日本学校保健学会第67回学術大会
4. 発表年 2021年

1. 発表者名 小川真由子、福田博美、藤井紀子
2. 発表標題 臨床判断力を養うシミュレーション教育の効果 - 学生からみた反復学習の評価 -
3. 学会等名 日本学校保健学会第67回学術大会
4. 発表年 2021年

1. 発表者名 高木久美子、福田博美、小川真由子、林さえ子
2. 発表標題 女子中学生の性行動と電子機器の使用についてCOVID-19流行前後の変化
3. 学会等名 日本学校保健学会第67回学術大会
4. 発表年 2021年

1. 発表者名 小川真由子、福田博美、藤井紀子、三尾弘子、水野昌子
2. 発表標題 シミュレーション教育における緊急時対応の養護教諭学生と現職養護教諭との相違について - エピペン投与に関して -
3. 学会等名 第62回東海学校保健学会
4. 発表年 2019年

1. 発表者名 福田博美、小川真由子、藤井紀子、名越友香、橋本莉紗
2. 発表標題 養護教諭養成課程の学生の看護力向上の検討
3. 学会等名 第62回東海学校保健学会
4. 発表年 2019年

1. 発表者名 葛西敦子、福田博美、山田玲子、佐藤伸子、秋月百合、小川真由子
2. 発表標題 養護教諭の臨床判断に関する測定用具の妥当性・信頼性の検証
3. 学会等名 第66回日本学校保健学会
4. 発表年 2019年

1. 発表者名 小川真由子、福田博美
2. 発表標題 特別支援学校におけるシミュレーションを導入したエビデン講習に関する一考察
3. 学会等名 第66回日本学校保健学会
4. 発表年 2019年

1. 発表者名 青山宣子、山本鈴、福田博美、小川真由子
2. 発表標題 養護教諭のための高機能患者シミュレータのシナリオの作成 - 喘息と熱中症の事例 -
3. 学会等名 第66回日本学校保健学会
4. 発表年 2019年

1. 発表者名 佐藤伸子、葛西敦子、福田博美、山田玲子、秋月百合、小川真由子
2. 発表標題 養護教諭の臨床判断への関連要因
3. 学会等名 第16回日本健康相談活動学会
4. 発表年 2020年

1. 発表者名 Hiromi Fukuda, Mayuko Ogawa, Noriko Fujii
2. 発表標題 Tendency of clinical judgments of school nurses during Epipen administration -From behavioral analysis of simulation education using a high-performance patient simulator-
3. 学会等名 The 6th International Nursing Research Conference of World Academy of Nursing Science (国際学会)
4. 発表年 2020年

1. 発表者名 小川 真由子
2. 発表標題 実践から学ぶシミュレーション教育－高機能患者シミュレータの活用－
3. 学会等名 第28回愛知県看護教育研究学会（招待講演）
4. 発表年 2019年

1. 発表者名 小川真由子
2. 発表標題 高機能患者シミュレータを用いたシミュレーション教育の臨床判断における課題の検討
3. 学会等名 第61回東海学校保健学会
4. 発表年 2018年

1. 発表者名 林さえこ
2. 発表標題 看護教諭養成課程学生の臨床判断能力を育成するシミュレーション教育プログラムの評価
3. 学会等名 第61回東海学校保健学会
4. 発表年 2018年

1. 発表者名 小川真由子
2. 発表標題 高機能患者シミュレータを用いた養護教諭のエピペン投与前後における臨床判断の傾向
3. 学会等名 第27回愛知県看護教育研究学会
4. 発表年 2018年

1. 発表者名 葛西敦子
2. 発表標題 養護教諭の臨床判断に関する一考察
3. 学会等名 第65回日本学校保健学会
4. 発表年 2018年

〔図書〕 計0件

〔産業財産権〕

〔その他〕

-

6. 研究組織

	氏名 (ローマ字氏名) (研究者番号)	所属研究機関・部局・職 (機関番号)	備考
研究分担者	福田 博美 (Fukuda Hiromi) (90299644)	愛知教育大学・教育学部・教授 (13902)	

7. 科研費を使用して開催した国際研究集会

〔国際研究集会〕 計0件

8. 本研究に関連して実施した国際共同研究の実施状況

共同研究相手国	相手方研究機関
---------	---------